高知精神保健

発行所　高知市丸の内1丁目2－20
高知県地域福祉部障害保健福祉課内
高知県精神保健福祉協会
電 話：088(823)1111・088(823)9669(直)
FAX：088(823)9260
E-mail：kochi-mhwa@s2.dion.ne.jp
発行人　井上　新平　　編集人　谷　晃

第248号

第51回高知県精神保健福祉大会報告

「つながりあって生きる」

～生活の場面からみえてくる発達障害～

第51回高知県精神保健福祉大会が、平成23年10月19日（水）高知県民文化ホール（グリーン）で開催されました。

主催者挨拶

高知県精神保健福祉協会会長　井上新平

発達障害について高知県では４年前から高知大学医学部、教育学部、高知県療育福祉センター、県教育センター、県教育委員会などが参加して「高知発達障害研究プロジェクト」が組織され、医療、福祉、教育の分野が一体となって基礎研究を行い、早期発見早期支援あるいは幼保小中高校の連携体制がいかに使えるかを研究し、その成果を県内フィールドで確かめていこうとしている。

その発展した形で専門医師養成のため、発達障害研究の先駆者、スウェーデン・ヨーテボリ大のクリストファー・ギルバーグ教授（児童青年精神医学）の協力を受け、「高知ギルバーグ発達神経精神医学センター」が開設されることとなっている。

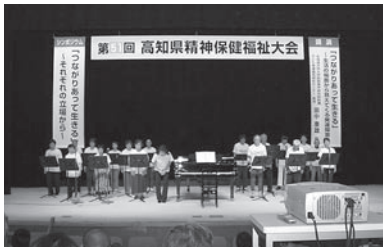
また国が行う子どもの心身の発達と環境の関係についての、母親の妊娠期から生後長期にわたって追跡調査する「エコチル調査」に高知県も参加しており、発達障害が今日的な問題として注目されており、今回大会の講演とシンポジウムが関心をもつ皆様のお役に立てれば幸いです。（抜粋）

祝辞を述べる高知県知事尾崎正直氏。

表彰：
平成23年度高知県精神保健福祉協会長表彰者

南部博俊氏（高知市精神障害者家族会会長）

アトラクション：
藤戸病院デイケア
コーラスグループ
HAZAMACER'S



講師を紹介する
大会実行委員長
徳平繁行（田辺病院）

目　次

第51回高知県精神保健福祉大会 …… 1
つながりあって生きる　講演 …… 2
つながりあって生きる　シンポジウム …… 3
どんぐりも大きく花開くように …… 5
精神保健福祉ソフトボール大会の結果について …… 6

講　演

「つながりあって生きる ～生活の場面からみえてくる発達障害～」

講師：田中　康雄
（北海道大学大学院教育学研究院附属
子ども発達臨床研究センター教授）

分かりにくい発達障害というものが、どのような「生活の場面から見えてくる」か、まずいくつかのエピソードから紹介します。

Ａ君、お母さんにとっては育てにくいお子さんで、ずいぶん親御さんもご苦労し精神的に追い詰められています。乳児健診で発達の遅れが疑われて医療機関を紹介されても予約待ちが長く、大学で診ることになりました。Ｂ君、３人兄弟、自閉症のお子さん。３人みなさんが発達障害と思われました。やはり親御さんは疲労困憊です。お母さんはご自分を責められました。親御さんの中には、ご自身や御家族の精神的不健康で悩んでおられる方も少なくありません。

Ｃ君は知的の遅れのない広汎性発達障害。普通小学校入学前に、他父兄から入学反対運動が起きました。Ｄ君も学校の件で、お母さんは戸惑いがありました。Ｅ君は注意欠如・多動性障害（ADHD）です。悪気がなく騒ぐことが多いのですが、担任の先生は「うるさいのはこの子だ」と思い込んでいるのでしょうか、Ｅ君がいないときでも「Ｅ君、静かにしなさい！」と言って、Ｅ君は傷ついた。テレビゲームの好きなＦ君、テレビゲームが大好きだった。でも中学校になると勉強のことを考え始めたのは、部活動の顧問教員と信頼関係ができたのがきっかけでした。子どもたちも生活の中で戸惑っているのが、会ってみてよく解ります。

大人の方でもご自身の発達障害の特性で悩んでいる方はいます。大卒、大企業に就職できている方もたくさんいます。でも、コミュニケーションがうまくいかなくて悩んでいる。うつ的に見えることもある。職場の部署が変わると落ち着くこともあります。スケジュール作りをすると落ち着く、ということもあるようです。試行錯誤している方もいます。

発達障害というのは、「ある特徴の一つ」と考えるとよいのです。でも、ともすれば、自分を責めてしまいます。障害特性を医学的にどうのこうのと言うよりは生活をどうし易くするか、と考える方がいいのです。親御さんに対しても、「困りごと」に注目して、ご苦労されていることを労ってあげる必要があります。親や本人の根性論でどうこうなるものではないのです。周りも、誤解をしないようにしたいものです。

自閉症やアスペルガー症候群も、広汎性発達障害の範疇のものです。やり取りのズレが目立ったり、感覚が過敏、という傾向があります。ADHDや、学習障害（LD）も発達障害の仲間です。苦労を持つ子どもたちです。医療の場面に現れにくい運動音痴といった発達性協調運動障害もあります。どの障害も、ご自身は苦しんでいます。診断からはその苦労は見えにくいこともあります。関係者や医療者がまずは不安を、生きづらさを軽減してほしいと思います。そして、まずは身近な親御さんの支援もお願いします。

講演の様子

いろんな子どもたちがいて、教員も、学年に応じた見方で子どもたちを見てほしいのです。年齢に応じて特徴が違ってきますから。大人の支援者を作る、学習のフォローをしていくなど、支援方法を年齢に応じて変えていきましょう。

発達障害の支援のポイントは「親への支援」「現場の関わり」「薬物治療」「地域の整備」です。今、できていることを誉めていく。長所を認める。これは親が子どもにするだけでなく、支援者もしてください。そして関係者同士もしてください。本人は「できないことが悲しい」と思っています。だから誉めて、状況や関係の修復をしていきましょう。

学校でも、協力し合う雰囲気づくりをしてください。そして学習支援も重要です。子どもを支持・肯定してほしいのです。子どもに合わせた環境づくりを心がけてほしいのです。

告知の問題も重要です。親御さんの受容もみなさんすんなりいく訳ありません。落ち込む、自責、頑張りすぎ、否認、怒り。当然です。明るく見えても、悩んでいるのです。だからこそ、関係機関の方が支援する必要があるのです。そして、ご本人への告知もナイーブな問題です。僕は高校以降でないと告知は難しいと思います。受診勧奨の問題もある。

要は、みんなで連携しながら、子どもを誉めて親御さんを労いましょう。現場や生活場面を実際に見てください。「発達の障害」というよりも「生活の障害は何か」を考えてほしいと思います。発達のアンバランスさを生活のつまづきにしないことです。そういった視点で、工夫をしながら支援ができるのだと思います。

著書紹介

「経度発達障害　繋がりあって生きる」金剛出版 2008

「支援から共生への道」慶應義塾出版会 2009

「つなげよう　発達障害のある子どもたちと私たちができること」金剛出版 2010

シンポジウム1

「仲間と育つ　地域で生きる」

特定非営利活動法人　高知県自閉症協会
理事　川田　仁愛

私の娘は、保育園の先生に理解があり早期に診断を受け療育を受けることができた。行事などほかの子どもと一緒のこまやかな支援に囲まれ、本人も自信を持って日々の生活を送ることができた。小学校ではその支援がなくなり、問題行動、パニックの繰り返しで不登校になった。ともに育った子供たちは保育園でのこまやかな支援を理解しており、「保育では一緒にやりよったのに、どうして学校ではできんろう」という言葉をもらい、母親としてありがたかった。

別教室を用意して「構造化」してもらい、わかり易い一日のスケジュールを作るなどして、なんとかみなと同じ小学校に行けるようにしてもらった。中学校も先生の勧めもあり養護学校ではなく校区の「地域の学校」に進むことを選んだ。今でも不登校気味ではあるが、14歳になり義務教育を終え進路を決める時期になり、本人には「もう学校には行かず仕事がしたい」希望があり、ひとより早く地域や社会へ飛び出していくかもしれない。

小さい頃から一緒にいたお友達は、伝えたいことは紙に書いて娘に渡してくれる。そうしたほうが伝わり易いことを知っているから。みながそういうふうに育ってくれてよかった。そういう人たちを大切にしながら、これからもつながりを持って生きていけたらいいなと思っています。

NPO高知自閉症協会のホームページ

http://wwb.jp/j-kochi/

シンポジウムの様子

シンポジウム２
「地域と連携し広げよう支援の輪」

高知県立療育福祉センター発達支援部長
田村　謙二

高知県では「日本一の健康長寿県構想」のなかに発達障害の支援をひとつの柱としていれ取り組んでいる。まず早期発見と療育の体制をつくり、一貫した支援体制を構築、さらにそれを地域で支えるための人つくりを目指している。発達障害の人が、出来るだけ自主的に行動し、一般の人と協働できるような地域社会を目指して取り組んでいる。

高知県立療育福祉センター発達支援部のホームページ
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/060302/ryouikuhukusi-hattatsushien-hattatsutop.html

発達障害啓発リーフレット

シンポジウム３
「職場につなげるサポート」

(独)高齢･障害者雇用支援機構
高知障害者職業センター
主任障害者職業カウンセラー
植木　康敬

障害のある人の特性と、一般就労に向けての希望など本人のやりたい気持ちを大切にし、センターではグループワーク、SST、問題解決シートなどの道具を使った訓練体験を、足りないところがあれば障害福祉手帳を取得しての障害者雇用も考慮しつつ、そのマイナス面を上回る肯定的で安全な環境の中で援助することを心がけている。

高知障害者職業センターのホームページ
http://www.jeed.or.jp/jeed/location/chiiki/39_kochi.html

シンポジウムの様子

からだ･くらし･すこやかに
大日本住友製薬
www.ds-pharma.co.jp

～どんぐりも大きく花開くように～

（創立10周年記念式典記念撮影）

「特定非営利活動法人 れいほくの里どんぐり（土佐郡土佐町、理事長 都築純子）は平成23年４月に創立10周年を迎えました。昨年10月26日には隣町にある本山町プラチナセンターにて「れいほくの里どんぐり 創立10周年記念式典」を来賓15名、一般客123名、どんぐり関係者19名の参加により開催しました。

式典では理事長挨拶に始まり、高知県知事 尾崎正直氏祝辞、感謝状贈呈、支援者のどんぐりへの想い、どんぐり利用者の発表と続き、日頃の活動状況をスライド写真で映写し、最後には参加した利用者、職員全員で「どんぐり宣言」を発表し、拍手喝采のなか式典を閉じました。

また午後には、祝賀会も行われ盛会裏におわりました。

（利用者、役職員一同）

「みなさんいつもありがとうございます！
これからもどうぞよろしくお願いします！」

（写真左・スライドショー風景／右・どんぐり宣言発表）

どんぐり宣言

わたしたち“どんぐり”は一体となり 大きな実を成らせます。どんぐり利用者17名、役職員7名。みんな清く正しく、高い志を持っています。10年間留まることなく、ころころと、またゴロゴロと転がりながらも走り続けてきました。どんぐりに関わるみんなが、多くの幸せを掴むために。まだゴールは遠いかもしれません。そのためには、これからも時には休憩しながら走り続けます。

ボランティアのみなさま、地域のみなさま、いつもどんぐりを支援していただき本当に感謝していますありがとうございます。私たちは、まだまだ小さなどんぐりですが、これからも、いつも温かく見守ってくださるみなさまに愛され、大きな実になり、いくつもの幸せを作り、みなさまに少しでも喜んでいただけるよう成長し続けますことをここに宣言します。

平成23年10月26日
どんぐり利用者代表

れいほくの里どんぐり

食パン２種類、菓子パン35種類、クッキー７種類、ラスク３種類、カステラ１種類製造販売中。
年間販売額1,100万円。平均月額工賃21,000円。

平成23年度　精神保健福祉ソフトボール大会の結果について

Ⅰ と　　き　平成23年10月12日(水)
Ⅱ ところ　高知県立春野総合運動公園
Ⅲ 日　　程　開会式　9:00　試合開始　9:30　閉会式　15:00

優　勝　土佐病院
準優勝　同仁病院
第三位　田辺病院
第四位　石川記念病院

予選リーグ戦

(Aゾーン)

	ハーモニー	同　仁	海辺の杜	ゆかい	石川記念
ハーモニー		×2–17		○16–9	
同　仁	○17–2		○19–8		
海辺の杜		×8–19			×5–8
ゆかい	×9–16				×6–7
石川記念			○8–5	○7–6	

(Bゾーン)

	土　佐	ダルク	田　辺	藤　戸	南　国
土　佐		○35–1		○24–9	
ダルク	×1–35		×0–27		
田　辺		○27–0			○12–4
藤　戸	×9–24				○8–7
南　国			×4–12	×7–8	

＊ 決勝戦は、予選から順調に勝ちあがってきた同仁病院と、圧倒的な打力でBゾーンを制した土佐病院の対戦となりました。
＊ 初回から毎回得点を重ねていく土佐病院に対して、同仁病院も反撃をしましたが6回裏に3点を奪われゲームセットとなりました。
＊ 雨のため順延となった今年の大会でしたが、当日は朝から秋晴れの爽やかな一日となり、応援の方や選手もスポーツの秋を満喫して頂けたことと思います。
審判団や関係者の皆様の御協力に感謝申し上げます。

決勝トーナメント

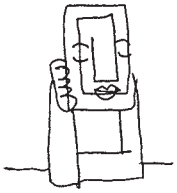
優勝　土佐病院
5－12×
A-1位 同仁　　B-1位 土佐

三位決定戦

田辺
19－4
(5回コールド)
田辺　　石川記念

写真提供＝土佐病院

たとえば、
ナイチンゲールだったら
どうするだろう、
と考えてみる。



彼女の直筆の文字を使った
このマークを見るたびに、いつも、
自分たちに問いかけています。
エーザイ
ヒューマン・ヘルスケア企業　エーザイ
http://www.eisai.co.jp